



# 新年のご挨拶



病院長  
新家 真

新年あけましておめでとうございます。今年は暖冬の予想であり、去る12月11日には三重県の方でなんと夏日という事態になったそうです。

さて新年の平成28年(2016年)は丙申(ひのえさる)の年です。十二支の未(ひつじ)年の未がなぜ羊?と言う話はもう去年してしまいましたが、同様にもともと殷(商)の時代の数を数える字であった申(要するに当時は一、二、三、四とは数えていなかった訳です)を分かり易く(憶え易く?)するために動物をあてはめてそれがたまたま猿であったためにサル年と言う訳で、猿とは何の関係もない訳です。実は豊臣秀吉は申年生まれとされています。サルのニックネームで信長から呼ばれていたという事になってはいますが、これは申年生まれだからでなく、やはり猿の方に似ていたからでしょう。ちなみに明智光秀のニックネームは金柑(キンカン)頭で、猿同様、ハゲであったという外見のホモロジーから来ています。

さて、戦国の名将で且つ人気者と言えば武田信玄がその筆頭と言えるでしょう。意外な事に武田信玄は、日本の武将(これは戦国時代に限りません)の中では、兵法のみでなく詩をよくつくるという点でも筆頭(即ち文武両道)であったという事は意外に知られていません。ちなみに信玄の作とされる漢詩(当時詩と言えば漢詩のみ!)は十七首伝わっているそうで、「武」の方のライバル上杉謙信の一首を大きく引き離し、「文」の方では圧勝しています。その信玄作で新正口号(新年の口ずさみ)という七言絶句が伝わっています。意味は「新年になったけど、まだまだ春は遠く(旧暦では1月は新春)、霜やら雪やらで寒いばかりだ。こんな不景気な気分ではやがて来るはずの春風にもバカにされる。そうだ『江南の梅一枝』という有名な一句を高らかに歌って(吟じて)景気をつけよう!」と言う物ですが、『江南の梅一枝』とは中国は六朝時代の陸凱という詩人の作った詩という事が分かっており、ここに信玄にはこのような深い漢文の教養もあった事までもが分かってしまうのです。

ひるがえって平成28年丙申の歳となった日本の回りを見廻してみると、中国のバブル崩壊(するのかしそうなのかよく分かりませんが)、GDPの伸び悩み、つい何年か前では日本を代表するメーカーであった某社のますますの赤字等々、なかなか春風も吹いてはこないようです。

当院では前年26年度に電子カルテの更新と病院機能評価の一般病院2 3rdG: Ver.1.0の更新という大きなハードルを無事に乗り越える事ができ、また今年27年度は念願であった婦人科の再開、患者支援センター新設を果たし、そして更に東京都がん診療連携協力病院の指定もとることができました。12月には地域医療連携情報交換会を当院の連携施設となっている世田谷の医師会の先生方を中心に三軒茶屋のキャロットタワーで盛大且つ成功裏に終える事ができ、また時間外救急を取って欲しいという地域の要求に出来るだけ答えるべく、10床のオーバーナイトベッドを4階病室を再編して新設しました。

平成28年の新年には、今一層地域に根ざした病院を目指して職員一同一丸となって務めていきたいと思っています。平成28年が皆様にとっても素晴らしい一年でありますよう祈っております。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

平成28年 元旦